「新潟県山岳協会」　「日本山岳会 越後支部」

合 同 企 画

御神楽岳　1386.5M(阿賀町)

日　時：２０２１年１０月１７日(日)

ルート　：室谷登山口～御神楽岳(往復)

参 加 者：２５名

２０２１年度の山行計画は新型コロナ感染拡大防止の観点からすべて中止とし、今季、最初の登山である。当日は雨にも関わらず遠方の村上市から上越市までの会員が６時半に阿賀町室谷集落「かやぶきの里」に集合し小雨の中、登山口へと出発とした。今回は２５名の参加と大勢であり３班編成で行動することとした。登山口で各班別に点呼をとり日本山岳会越後支部後藤副支部長から挨拶を頂き元気よく山頂を目指し出発した。天気予報は午前、小雨、午後からは回復の予測であるが気温は低くなるとのことである。途中の水場は普段は少ないが今日は雨の影響か小川のような流れである。登山道は夜半からの雨で泥んこ状態、標高 1000M前後から木々の紅葉は奇麗だった。元気よく大森山展望台 1140Mに到着、此処まで来れば傾斜面を上り切れば平坦となり晴れ間からの草黄葉を見ながら進めば雨乞峰となり山頂はすぐであった。標高 1200M前後からは風もあり寒くなった。山頂到着 11 時、雨は止んだが寒い、周りは濃いガスに覆われ展望は無い。山頂の気温は５度前後と寒いため記念写真を撮り即下山とし、大森山展望台で昼食とした。午後からは霧雨となり、下りは滑らないように注意し全員元気よく登山口に到着することが出来た。最後に新潟県山岳協会遠藤副会長から今回の企画に大勢で参加いただいたことに感謝の挨拶があり解散とした。寒い中の登山、お疲れ様でした。ありがとうございました。

御神楽岳山頂では濃いガスに覆われ展望は出来ませんでした。「日本山岳ルーツ大辞典より」御神楽岳のルーツなどについて記載しました。

【山名のルーツ】

御(み)は山に対する敬称。日照りに悩まされた農民が、この山の頂に祭壇を設け、神楽を奉納して雨乞いの祈禱を捧げたことを示す山名である。。

【この山と神様】

崇神天皇のとき、まだ天皇に服さないものが多かったので北陸・東海・山陽・山陰に征定のための将軍が遣わされた。北陸将軍オオヒコノミコトは息子の東海将軍タケヌナカワケノミコトと会津で奇跡的に出会った。二人はこのことを祝い福島県と新潟県の境にある御神楽岳の山頂にイザナギ、イザナミの二神を祀った。これが伊佐須美神社のはじまりという。欽明天皇の時、平地の現在地に移され二神の他二将軍(オオヒコノミコト、タケヌナカワケノミコト)が祀られた。

【この山と風土】

御神楽岳は厳しくも雄大な岩壁を持っているためか、会津の谷川岳という異名がある。

今は新潟県の山であるから明治の初期に会津藩であった時代の呼び名が今に伝わっていることと推察できる。山の雪形を農作業の目安にする習慣は新潟県でも飯豊山系に多い。

御神楽岳は、五月になると「鶯形」が百丈岩付近に見ることができる。農作業の開始である。御神楽岳に「雨乞峰」いう「池」があるが、里の百姓が供物をそなえて、祈願する。

池の水を一同で掻き回していると、里には雨が降ると、言い伝えられている。しかし、山頂は霊山として古くから立ち入りを禁じている。神谷、室谷部落の許可がないと雨乞いもままならない。　　**「日本山岳ルーツ大辞典より」記載**

以上

報告者　新潟県山岳協会　登山普及委員長　渡辺　茂

寒い中の御神楽岳山頂にて